



(左) 全国初、家形埴輪5基が並んで出土した石敷区画

後円部の上面（墳頂）で、6.3 m×3 mの範囲に川原石を敷き詰めた「石敷区画」。家形埴輪はこの中に5基が並べ置かれていることがわかりました。一般に大きな古墳のほとんどは後円部にある埋葬施設が後世に盗掘や改変を受け、当初の古墳の姿、状態を残すことはまずありません。家形埴輪が並んで置かれた状態が確認されることは奇跡的な発見です。



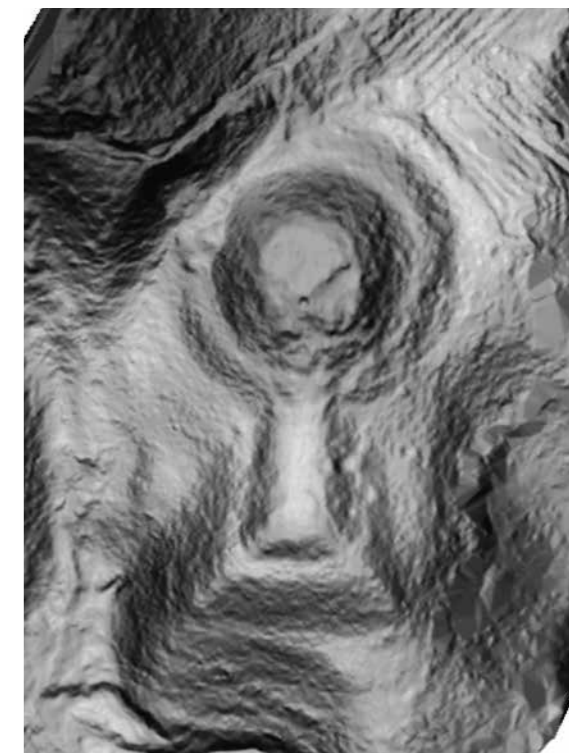
(上) 中・四国地方で初めての船形埴輪が出土

準構造船を模した船形の一部が出土。全国的にも船形埴輪がみられるようになる最初の時期のもので、甲立古墳には最先端の文化が導入されていました。

(下) 調査した後円部の様子



(下) 詳細な形を示す調査前のレーザー測量図



## 安芸高田の新たな宝 甲立古墳

新発見で注目された甲立古墳、5年間の発掘調査でも次々と重要な発見がありました！

古墳がつくられたのは、出土した埴輪の形から4世紀末の年代とわかります。調査前のレーザー測量図で示すとおり、極めて保存状態の良い、全長約80m、後円3段、前方部2段の段状の造りで、後円部・前方部とも均整のとれた前方後円墳でした。調査を開始すると、まず斜面の葺石も崩れずに良く残っており、さらに驚くべきは後円部の上面から家形埴輪が次々と出土し、「石敷区画」と呼ぶ遺構に家形埴輪が並び置かれていることが確認されました。これまで国内でも前例のない大発見でした。4世紀代の家形、船形、楕円筒形の埴輪、後円部上面を囲う埴輪列などいずれも県内では初めての発見となりました。

**甲立古墳の発掘調査**  
甲立古墳は、平成20年に安芸高田市甲立町上甲立菊山で新たに発見されました。市教育委員会では県内有数の前方後円墳であるこの古墳を、今後いかに保存し、活用を図っていくかを検討するため、平成22～26年度の5年間にわたる発掘調査を実施しました。これから国史跡指定への準備を進めていきます。

**次々と明らかとなった古墳の姿**



(上) 埴輪列で囲われていた後円部

後円部の上面では、家形埴輪の石敷区画や埋葬施設を囲うように、外側の端に近い部分に円筒埴輪を中心とした埴輪が円形に立ち並んで出土しました。



(上) ほぼ完形に復元された石敷区画出土の2号家形埴輪

1600年以上経て、ばらばらに崩壊した状態からほぼ完形に近い元の姿に復元することができました。8割以上の破片が残っており保存状態の良いことが証明されました。高さ68cm、幅87cm。

はじめた現地を訪れた際は、本当に前方後円墳があるのか半信半疑で麓からの里道を登りました。ほどなく、甲立古墳はひっそりとした林の中に巨大な姿を突然現しました。「なぜ誰にも知られずこんな大きな古墳が？」と愕然としたことをよく覚えています。発掘調査ではまさに想像を超える発見の連続でした。端正な墳丘、精緻な葺石、高度な技術を見て取れる埴輪群…これまで文献等では見ることがなかった畿内の古墳文化そのものが「甲立古墳」にはありました。

日本史でも謎が多い4世紀代に築造された甲立古墳。今回の調査では全体のほんの一部を確認したに過ぎません。今後その全貌の解明も期待されますが、第一は末永く保存していくのが我々の使命だと考えます。



家形埴輪を調査中の沖田さん

### 甲立古墳の発掘調査を終えて

発掘調査を担当した（公財）安芸高田市地域振興事業団 沖田健太郎さんから



(下) 保存状態の良い葺石



(左) 石敷区画出土の円形状建物の家形埴輪  
全国初の出土



(上) 後円部出土の子持ち家形埴輪  
全国2例目の出土



(下) 後円部の調査風景